

■■アナタは何を履く人ぞ？■■

当然過ぎて見落としがちだが、朝家を出てから帰宅するまで、ひたすら立って座って歩いてを続けるのだから、足を痛めてしまえば何もできなくなるも同然だ。

そんな悲劇に見舞われないように、履物は着る物や持ち物以上に注意を払うべきポイントなのだ。



① サンドルは論外

いくらファッションブルなものであっても、かかとも爪先もないつかげやサンダルは参加者の足元には向かない。自分はあまり歩かないとか、履きなれてるから今更靴ズレなど起こさないとか本人的な主張はあるだろうが、不向きである一番の理由は危険だからだ。

混み合った会場内やその周辺では、いくら気をつけていても不意に足をふまれたり、カートなどに突かけられる危険性はゼロにはならない。その時に爪先が露出したサンダルなどを履いていると、最悪爪が割れるなどの大きなケガをしかねない。そうなったら立ち往生だ。せめて爪先はしっかりガードされているものを選ぼう。

どうしてもサンダル類を履くのなら、靴底やホールド、爪先のガードがしっかりしているアウトドア用のスポーツサンダルにするか、せめてやや厚手の長めの靴下を履くようにしよう。



② ヒールや靴底は強度を確認

会場内で意外と発生するのが、靴のヒールや踵、靴底が剥がれてしまうトラブルだ。まさかと笑うかもしれないが、本の詰まった重いバッグを肩に雑踏の中を右へ左へと避けながら丸一日歩き通す、というのは靴に実に大きな負担をかけるものだ。くたびれた靴や、作りがヤワな靴、あまりにも繊細な靴は破損しかねない。会場内でそうになったらアウトだし、せっかく高価でおしゃれな靴が1回のコミケットでボロボロになってしまうのも悲しいだろう。コミケット参加前には、履いていく靴はくれぐれもよくチェックしておこう。



③ 濡れることも考えて

最初から雨天のケースはともかく、突発的な雨の場合、履物をガードすることは難しい。しかし濡れた靴を履いたままにしていると、足の皮膚がふやけて柔らかくなり、靴ずれやマメができる危険性が高まる。別項でも触れた通り雨の可能性を常に考え、完全防水の靴にするか、濡れても乾きやすい靴にするかよく考えて選ぼう。

ただし、最近ユーザーの多いラバーサンダルは熱が篋りやすく、雨に濡れなくても汗でぐしょぐしょになってしまうことが多いので、コミケット用の履物としてはあまりオススメできない。

雨を防ぐならレインウェアと同様の透湿防水素材の内張りが使われた軽トレッキングシューズが良い。雨の際は周囲から水が飛び込んで来るので、せっかくならば平靴よりもくるぶし下まで深さがあるミドルカットのシューズを選択しよう。ただし今までそういったタイプの靴を履いたことがないならば、事前にきちんと履き慣らしをしておくこと。

どちらの場合でも、靴下の替えは複数持って行くのがセオリーだ。



④ もしものために

それでもマメや靴ズレができてしまった時の為に、救急絆創膏の数は必ず用意しておこう。少しでも痛いな、おかしいなと思ったら、放っておかずすぐにいったん靴を脱いで状態を確かめ、異常があれば適切な処置を。歩けなくなってからでは手遅れなのだから。

●夏コミならではの要注意とは…？●

それはズバリ、サークルの本の上に汗を落とすことだ。汗が落ちた本は責任を取って購入すべきだ、とまでは言わないが、サークルにとっては見本誌以外の本がそういった形で痛むのはとても辛いことだ。会場を回る際には定期的に手を洗い、汗拭きを携帯して本を取る前にはきちんと汗を拭くのがエチケットだ。

ちなみに、汗は腕や髪にも溜まっている。本の上に腕をつけてしまって汗痕べったり、とか、本を買って会釈した拍子に汗がぼたぼたとか、そんな笑えない状況を防ぐためにも、汗の始末は確実にを行うよう心がけること。

サークル側も見本誌他上から2、3冊目までには透明ビニールのカバーをかけるなどの自衛策を講じておくと良いだろう。